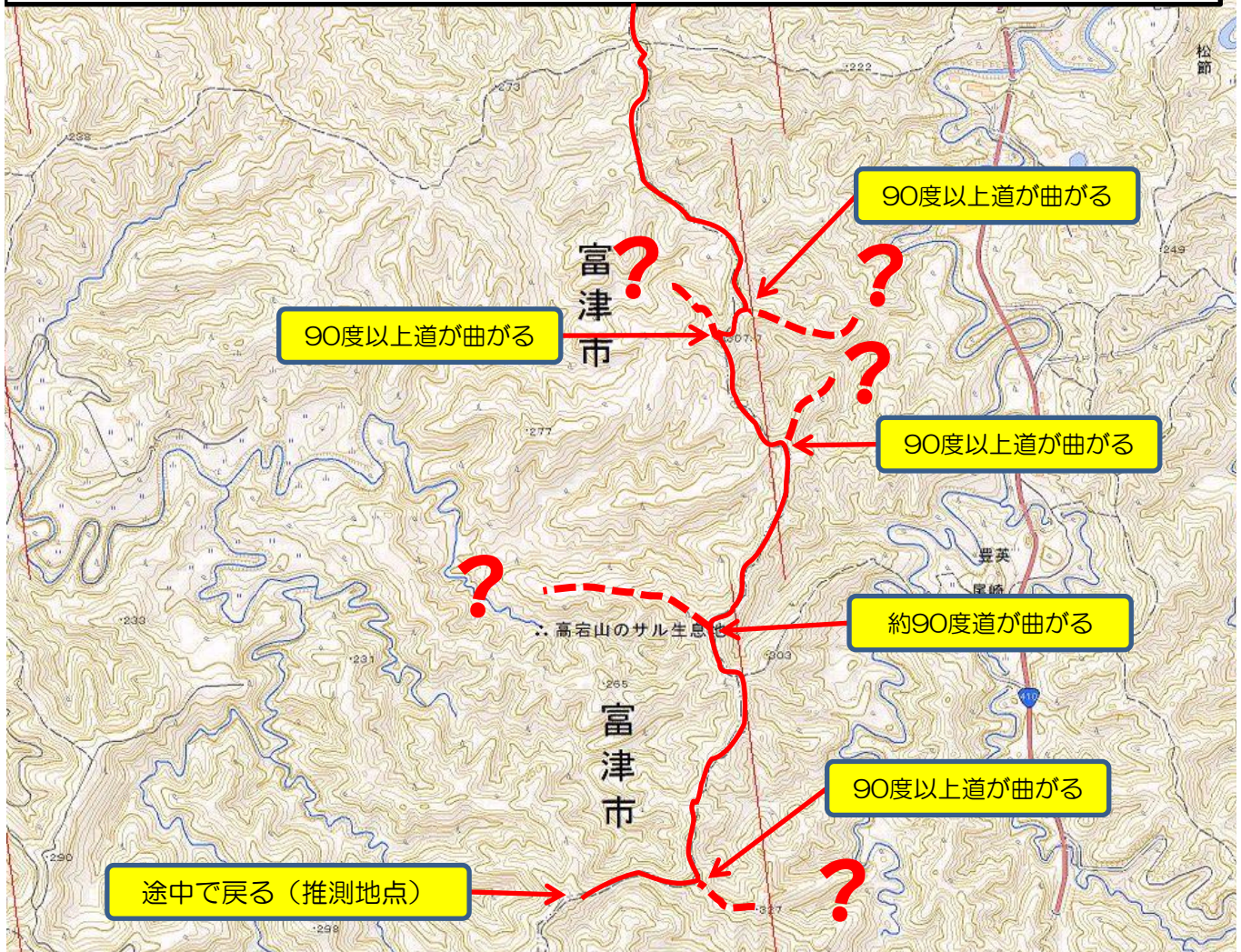


君津・高宕山道迷い(2009年12月)

標高300m程度の高宕山～三群山の郡界尾根を歩いていたが、3時間ほど歩いたところで、登山道も悪く引き返した。登山道がはっきりしないため、元来た道には戻れず道に迷ってしまう。翌日、携帯電話にGPS機能が付いていたため、おおよその位置が確定され、救助された。低山での道迷い事例である。



解説

低山とはいえ、12月。道が分かりにくく、三群山へ行く途中で引き返す。同じ道に戻っているのに、複雑で分かりにくい道は、同じ道を辿れない。道に迷ってしまった。(新聞記事では迷った場所は特定できなかったため推定した。)日も暮れたため、1夜を過ごす。携帯電話が繋がりにくく、妻に連絡を入れ、警察に救助を求めた。携帯電話のGPS機能でおおよその場所が分かっていたため翌日、無事救助された。

千葉県君津周辺は、低山とはいえ複雑な微地形があり、多くの道迷い事例が生じている。なぜ、道に迷うか？要因として考えられるのは、①道が不明瞭な場所である。②地図に現れない小さなアップダウンがある。③道が90度以上曲がっている尾根分岐が多い。などである。ナビゲーション技術がしっかりしていないとお薦めできない非常に難しい山域と思われる。携帯電話のGPS機能が救助されたことを好事例として、読者の皆さんも、事前に「地図アプリ(「ジオグラフィカ」がお薦め)」を携帯電話にインストールして山に出かけて欲しい。

余段ではあるが、千葉県で開催されたオリエンテーリングの大会は、この微地形が技術の難度を高め、非常に楽しい大会であったことを思い出した。